



島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：吉賀孝則
(浜田市立国府小学校)

編集：情報部

VOL.73 2022.3.3 (雛祭号)

発行責任者 坂井 佳恵 (大和中学校)

島事研ホームページ

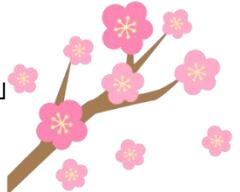
<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>

爽

SOU

【目次】

- ▶ 今年度を振り返って (副会長)
- ▶ 研究部コーナー
- ▶ 第51回研究大会 参加者の感想
- ▶ 益田教育事務所に勤務して
- ▶ 松江市「グループオペレーションリーダー」の活動について
- ▶ 学校紹介
- ▶ まんが「しまじいとけんくん」
- ▶ 編集後記



今年度を振り返って

副会長 岡田 由美

新年を迎えましたが、またもやコロナウィルスが猛威をふるい、3学期早々に臨時休業や学級閉鎖を余儀なくされた学校が多数あります。一年の締めくくりであり、進級・進学前の大切な時期のこの事態に、子どもたちは、もどかしさややるせなさを感じながら生活していると思います。私たち大人も感染症対策に神経を尖らせながら、ストレスの溜まる日々を過ごしています。

今年度、島事研では第五次研究中期計画の総括、そして第六次研究中期計画のスタートという区切りとなる研究大会を予定していましたが、研究部を中心に、会員の皆さんへ face to face で行うプレゼンについて熱心に計画をたてていましたが、紙上発表・オンデマンド配信への変更。そして、研修部が中心となり、上部さん（横浜市立日枝小学校事務職員）を講師としてお招きしようと計画していたセミナーの中止。いくつもの苦渋の決断を重ねてきました。

コロナ禍の今、物事の優先順位を見極めながら、開催のスタイルを変えること、延期・中止すること等、一度立ち止まり、今までの“当たり前”を見つめ直すことが必要となりました。しかし、その営みの中で、数々の知恵が生み出され、新しい価値観に気づくことができました。そしてその結果、島事研が活動する意義について見つめ直す機会になりました。事業を縮小するという、一見消極的な過程ではありましたが、未来に向けての糧となる機会でもあったと前向きにとらえたいと思います。

今年度も一堂に会することができず、会員の交流を図ることが難しい一年になりましたが、情報部が運営しているHPや「爽」をとおして、会員の皆さんと気持ちを共有できたと思っております。島事研の研究活動に対しまして一年間ご理解・ご協力をいただき、ありがとうございました。



研究部コーナー

来年度からの研究活動に向けて



年度末を目前に控え、どこことなく気ぜわしさを迎えることとなりました。

会員の皆さまにおかれましては、それぞれの勤務先で、今年度のまとめに入り始めていらっしゃるのではないのでしょうか。研究活動についても、今年度のまとめを行い、来年度の展望について、皆さまにお伝えする時期ですので、こちらの紙面でお伝えします。

○今年度のまとめ

1. 第六次研究中期計画の発表

島事研史上初の試みとなった研究大会オンデマンド開催の中で、研究中期計画においても、動画配信という形で発表しました。今回は YouTube を利用して動画配信したのですが、「チャンネル登録」してくださっている方もいらっちゃって、とても嬉しかったです。

そして動画は、今後も継続してご覧いただけるようにしてあります。研究中期計画に関する各動画については、島事研ホームページ、島事研キントーンから簡単にアクセスできますので、必要な時にいつでもご視聴ください。

2. 会員の皆さまへのお願い

2月に入ってから、皆さまにはメール等で、「島事研キントーン」へのログイン、そして「研究の記録」アプリへの入力をお願いしました。皆さまのご協力により、ログイン数、アプリへの登録数とも順調に伸びています。

これから、来年度研究大会での研究発表について、意向調査を行い、発表していただく方を選出します。

3月初旬には意向調査を実施しますので、ご協力をお願いいたします。



○来年度の展望

1. 第六次研究中期計画に沿った研究活動、実質初年度！

令和4年度より、年間を通しての研究中期計画の実施が始まります。

皆さんが取組を始められるにあたり、次のことをお伝えします。

今から7～8年くらい前に自分が参加した研修会で、ある講師の方から「何か取り組み始める時には大きく3つの方法がある。ひとつ目は、(取組を)全くのゼロから始める方法、ふたつ目はすでにあるAとBをくっつけて始める方法。みっつ目は、誰かがやっていることを丸ごとパクる方法」というお話を聞きました。

また、今年度の研究大会の講演では、講師の熊丸先生が「どうやったら楽ができるのか、考えることも研究」とおっしゃいました。自分はそれを聞いて、大笑いしましたよ。

これらから何をお伝えしたいか。

来年度から取組が本格実施となりますが、その始め方は、一人ひとり違っていいということです。今の自分に合った取組方法は何だろうと考えること、そして決めた方法をやってみることが、第一歩だと思います。ご自分のペースで、試行錯誤してみてください。

2. 研究部サポーターやりますか？

ただいま部長をはじめ6人のメンバーで「研究部」として活動しています。

ですが、次のことについて、お手伝いくださる方を募集します！



☆島事研キントーンの運営管理

新規採用者や異動者のデータ追加・修正等、管理する作業が必要です。それらをスムーズに行うためにお手伝いくださる方を募集します。お手伝いくださる方にはキントーンの管理者権限を付与しますので、興味がある方は研究部長にご連絡ください。

研究中期計画の説明動画を作成するにあたり、「しまじい」と「けんくん」について、作者にお願いして描き下ろしていただきました。同じように、ご自分が得意だと思っていることや、興味があることについて、研究部の活動をサポートしてくださると嬉しいです！

ご協力のほど、よろしく願いいたします。

第51回 島根県公立小中学校 事務研究大会

今年度の研究大会は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、研究集録配布による紙上発表・オンデマンド配信の方法で開催されました。

参加者の感想

【第六次研究中期計画発表】

- ・普段何気なくしている仕事も、何のためにしているのか、やり方はこれでよいのかなど、考えるクセをまずはつけていこうと思いました。そして、来年度から『基礎研究』できるかなあとドキドキしています。
- ・自己目標に着目し、島事研の研究活動と結びつけることで、研究自体の負担感を軽減するとともに、研究活動を「自分事」としてとらえ、参画していくことができる良いテーマだと思いました。
- ・動画配信視聴であったため、テーマ設定や研究の進め方など不明な点は何度も確認出来て良かったです。研究そのものが身近に感じられる取組案だと思いました。

【講演】

- ・学校運営にもっと主体的に積極的にかかわっていくうえで、「変わろうとする」ためには、経験やチャレンジしたことからのように「学ぶ」必要があるか考えながら、日々の実践に取り組みたいと思いました。
- ・待ちから攻めへ、同質性から多様性へという言葉が一番印象に残りました。専門職として積極的に関わっていけるよう自分自身の資質能力の向上に努力していきたいと思いました。
- ・時代に合った柔軟な対応力が大切だと感じました。自分が当たり前と思いついて行っていることを見つめ直し考えていこうと思いました。



【大会感想】

- ・コロナ禍で一堂に会することが難しい中、オンデマンドでの研修ができて良かったです。
- ・動画視聴だったので、自分のペースで観ることができました。配信された動画も、どれもとても丁寧に作られていたので、見やすく、分かりやすかったです。
- ・紙上発表・オンデマンド発表という形になったことで、出張の移動時間等が削減されたことと、いつでも自由に何回でも視聴することができるところが良かったと思います。説明を聞き逃したところをもう一度聞き直すことができ、理解を深めることができました。

【今後の研究大会の開催方法について】

- ・仕事をする中で、なかなか動画を視聴する時間がとれないなと感じました。
- ・県内の学校事務職員と顔を合わせ情報交換できる場として従来の開催方法も良いですが、今回の形も良いと思いました。
- ・研究大会の開催場所が近隣だと参加しやすいですが、遠方だと移動などがあり参加しにくいこともあると思います。今回のようなオンデマンド配信や、他にもアーカイブ配信などがあると都合の良い場所や、時間で視聴ができるので良いと思いました。

益田教育事務所に勤務して

益田教育事務所総務課 企画員 藤本 いづみ

今年度4月から益田教育事務所で勤務して、はや1年が経とうとしています。学校事務職員31年目にして、転職をした気分です。この歳にして学校とは違う新しい環境に加えて、電子システム操作など初めてづくして、出会う事例（給与、旅費など）も多く、今更ですが、毎日勉強です。日々、助けてくれる総務課スタッフやたくさんの方々には感謝です。

事務所での仕事については、他の人事交流の方が書かれているとおりなので省略させていただきますが、その他、たくさんの経験をさせていただいています。

例えば、益田管内すべてのグループにおいて、事務リーダー訪問、事務グループ訪問をさせていただき、各グループが工夫されていたり、力を入れておられることなどについて知ることができたりしました。今後の事務グループ活動の支援に役立てたいと思います。

また、益田教育事務所では年に5回、合同スタッフ会という、事務所内のスタッフと市町の派遣指導主事、派遣社会教育主事を交えた会があります。そこで、学校事務職員の人材育成について話をききたいとの要望があり、「島根県公立小・中・義務教育学校事務職員人材育成基本方針」についてプレゼンソフトを使いながら、話をする機会がありました。途中、事務職員クイズ（質問）も入れてみました。

そして、最後はグループに分かれて意見交換をしてもらいました。

事務職員の**仕事（職務）**って
どのようなものがありますか？

順番に答えてもらいましたが、
全員(23名)、パスすることなく
様々な仕事(職務)が出ました。

事務職員の職階は5つあります。
①～③には何が入るでしょう？

主事 → ①主任主事 → ②主任 → ③事務主幹 → 事務リーダー

事務職員にとっては簡単な
質問ですが、正式な職名と
なると苦戦していました。

意見交換をしましょう！

学校事務職員には学校運営に対して、

- ①今までかかわってもらったことで印象的だったことは何ですか？
- ②これからどういふことにかかわって欲しいですか？



どこのグループも話が尽きることなく盛り上がっていました。最後の発表では、事務職員について改めて知ることができたという意見や、今まで出会ってきた事務職員に助けてもらったこと、かかわってもらって感謝していることなどたくさんの話が聞けました。事務職員が学校運営に必要とされていると改めて実感し、今後、学校現場に戻った際には、学校運営に積極的にかかわっていきたいと思うことのできた貴重な時間になりました。

このように様々な経験ができるのは、教育事務所に勤務したおかげだと日々実感しています。

松江市「グループオペレーションリーダー」の活動について

松江市立乃木小学校 北村想至

松江市が今年度から設置した「グループオペレーションリーダー」の活動について紹介します。この役は、「学校事務機能強化のためのICT専門人材活用」により、事務職員1名の加配を受けて事務職員3名体制となった乃木小学校に置かれています。業務内容は「情報通信技術の活用・実践等を通して業務改善・職場環境改善に向け、指導、助言、サポートを行う。」となっています。また、グループリーダー会や事務職員の初任者研修、学校ICT教育推進検討委員会にも参加しています。

市教委にも組織運営要綱の改正や市内全校に対する兼務発令など活動環境を整えていただき、加配による効果を加配校やグループだけではなく、より市内全校に広げることが期待されています。

今年度は手探り状態の活動となっており、ICT活用や業務改善等に関する研修資料の作成やオンライン全体会の運営(Microsoft Teams)のほか、各校の要望に応じた支援などを行っています。

紙面では紹介できない点多々ありますので、詳細が気になる方はお気軽にご連絡ください。

【各校の「どうにかならない?」の声にICTの活用や、ちょっとしたアイデアで応えます】

松江市の組織・体制については、島事研ホームページをご覧ください

☞は乃木小で取り組んでいる内容です。

どうにかならない?!

①校長室の状況を職員室からわかるようにしたい

校長室は職員室から離れているので、先生方が校長に用事があるときに、私が来客の対応中や電話中だったりすると、せっかく来たのに職員室に引き返すことになるのが申し訳ない。どうにかならない?(校長)

②今日の予定や来校者を玄関でお知らせしたい

授業でお世話になる講師の方やボランティアさんなど、本校には、毎日多くの方が来校されます。そういった情報を教職員や児童にもわかりやすくお知らせしたい。どうにかならない?(教頭)

③連絡の手間を減らして朝礼をなくしたい

日々の連絡事項がパソコンで確認できれば、朝礼をなくして先生方が朝一で教室に向かえるようになる。パソコン起動時に自動的に立ち上がると、なおいいな。どうにかならない?(教頭)

④休暇願簿の手入れが大変だ

半日単位の年休が取れるようになったけど、細かい時間になって取得時間や累計の確認が大変だ。職員数も多いし、誰がどんな休暇を取ったか集計するにも一苦労。どうにかならない?(事務職員)

①校長室モニターを職員室に設置



「OK」「来客・電話中」「見回り」「外出中」など、校長室の状況が職員室から一目でわかります。

②テレビを連絡案内として再活用



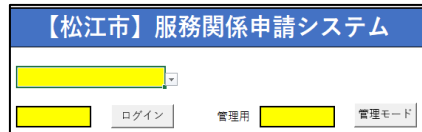
「スカイメニュー」の電子掲示板を利用しているのでタブレット端末からも編集や確認ができます。

③Chatみたいな校内連絡版



(excelを使用)
ちょっとした連絡事項はPC上で確認できるため朝礼をなくしました。

④休暇願簿の自動累計集計



休暇願簿の作成をソフト化して都度、印刷するようにして、年次有給休暇の半日休の取得時間や累計などが自動的にわかるようにしました。(市教委の許可をとって、数校で試行中)

学校紹介 松江市立揖屋小学校



福谷 ゆりか

東出雲町は松江市の一番東側にあり、ものづくりの町として工場が多くある一方で、京羅木山や意宇川などの豊かな自然にも囲まれた町です。町内には中学校1校と小学校が3校あり、連携をとりながら活動を行っています。

本校では全校326名の児童が、毎日元気に学校生活を送っています。地域の方とのかかわりも多く、日々の見守り隊からふるさと学習、読み聞かせのボランティアなど様々な場面で地域の方にお世話になっています。

特に、本校の校区では畑地区の「干し柿」が有名で、毎年3年生が地域の方に来ていただいて、柿の学習を行っています。

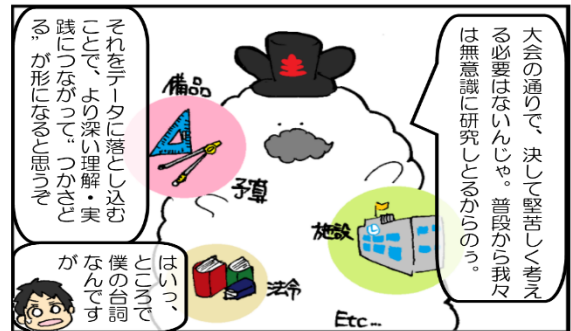
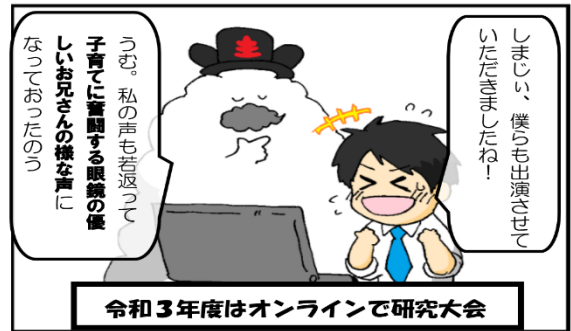
1回目は柿渋を使って染め物を作り、2回目は畑地区の干し柿づくりについて学びながら、学校で実際に干し柿づくりを体験しています。

教室の窓に柿のきれいなオレンジ色がかかると、「今年もその季節になったなー」と秋を感じます。

例年と比べると学校で地域の方を見かける機会も、お話しする機会も少なくなってしまう、児童も私たち職員も寂しく感じています。早くコロナ禍が落ち着くことを願いながら、地域の方をお迎えする際には感謝の気持ちを伝えていきたいなと思っています。



ぼん...とけん vol.8



原作・画：佐伯 圭一

【編集後記】

研究大会の動画を視聴しました。現在行っている業務がより良くなる方法はないのか考え、その方法を提案する、ということが「事務をつかさどる」ことなのかと思いました。業務を改善しようと検討した結果がたとえ例年と同じになったとしても、より良くしようと考えながら仕事をすることが大切ですね。研究部の方々は動画の準備に時間がかかったのではないのでしょうか。学校にしながら研究中期計画の説明を聞くことができるのが良いと思う反面、やはり実際に研究大会に参加して発表を聞きたいとも思いました。来年度は通常通りに大会が開催されることを願っています。(T.M)